



今求められる英語力について TOEFL Primary[®]及び TOEFL Junior[®]を例に



国際教養大学専門職大学院 教授

町田 智久

(TOEFL Primary[®] / Junior[®] 公式トレーナー)

1. はじめに	P1
2. TOEFL Primary [®] / TOEFL Junior [®]	P2
3. 英語での学習に必要なコミュニケーション	P5
4. ノート・テイキング	P7
5. まとめ	P8



Danke Sehr

1. はじめに

学習指導要領が各校種で改訂され、小学校と中学校に続き、令和4年度は高等学校でも新学習指導要領が施行されます。新しい学習指導要領の目標は、すべての校種において児童・生徒の英語でのコミュニケーション能力の育成です。児童・生徒は自分たちの身近な場面を通して、情報や指示を理解したり、気持ちや考えを表現したりするためのコミュニケーション能力を、4技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing) を通して身に付けることが求められます。

現在、英語はすでに国際コミュニケーションの中心的な言語です。世界中の約3.3人に1人が英語を使用し、また学習しています (British Council, 2013)、インターネット上で使用される言語の 62.9%は英語です (W3Techs, 2022)。このような状況を踏まえ、Shin (2021)は、英語は全世界の人にとって必要不可欠な「追加言語 (an additional language)」(p. 3) だと述べています。日本でも外国人観光客や留学生の増加に伴い、地方においても英語の必要性は高まっています。全国の大学では、グローバル30 やスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されている大学を中心に、語学以外の授業でも英語で行われる授業 (例えば、経済学、法学、自然科学など) が増えてきています。さらに、国際高校や国際バカロレア教育を実施する学校の増加により、高校でも英語で行われる授業は珍しくありません。そのため、これまでの英語学習に見られたような、語彙や文法を覚えて英文を読解するだけの学習ではなく、必要な知識や情報を得たり、自分の考えを発信したりする学習で、英語を道具として使うことが必要になります。つまり、英語「を」学ぶというよりも、英語「で」学べるように知識や技能を身に付けなければなりません。そうすることで、大学に入ってから英語で専門科目を学んだり、社会に出てから専門知識を生かして英語で交渉したりすることが可能になるのです。

この英語教育改革の流れは、テストにも変化をもたらしました。以前は、単語や文法を必死に覚え、英文を日本語にうまく訳せれば高得点を取れた時代もありました。しかし、そのような語彙力や文法の知識を測るだけでは、児童・生徒のコミュニケーション能力を正しく把握することはできません。身近な場面で英語を使ったやり取りを適切に行えるか、図や資料を手掛かりに英文の情報を正しく理解できるか、そして、自分の気持ちや考えを相手に分かりやすく英語で表現できるか、などの力を適切に測る必要があります。そのため、ここでは世界中で広く活用されている TOEFL Primary[®] 及び TOEFL Junior[®] を中心に、今求められる英語力がどのようにテストに反映されているのかを見ていきます。

2. TOEFL Primary[®] / TOEFL Junior[®]

一般的に、TOEFL (TOEFL ITP[®] や TOEFL iBT[®]) は、留学の際に必要な英語能力テストとして広く知られています。米国の教育テストを実施する非営利団体である Educational Testing Service (ETS) が、ノンネイティブの学習者の英語力を測定する目的で、TOEFL[®] を作成・実施しています。その中でも、TOEFL Primary[®] / TOEFL Junior[®] は、その対象者を小学生～中学生 (TOEFL Primary[®]) と中学生～高校生 (TOEFL Junior[®]) に絞った “Young Students Series” と呼ばれる初級学習者用のテストです。これまでに、全世界で 100 万人以上の児童・生徒がすでに受験しており、スコアに基づいた各自のコミュニケーション能力が測られています。各テストに共通する特徴は、① 受験者の身近な場面におけるやり取り (コミュニケーション) を理

解し適切に反応できるか、② 各校種における英語での学習（英語で授業を受ける際）に必要なコミュニケーション能力を身に付けているか、を問う問題で構成されています。各設問は、ETSが考える全世界の児童・生徒が身に付けるべき英語力をコミュニケーション・ゴールとして設定し、そのゴールに到達するための具体的な知識・技能を有しているかを測るように作成されています。以下、「身近な場面」と「英語での学習場面」に分けて、具体的なテストの内容を見ていきます。

身近な場面でのコミュニケーション

身近な場面でのコミュニケーションは、児童・生徒が実際に英語を使用する際には欠かせません。TOEFL Primary® / TOEFL Junior®では、子どもたちに身近な場面が設問に多く登場します。同様に、学習指導要領でも言語活動を行う際には児童・生徒に身近な場面を活用することが重要視されています。実際に各校種では、どのような身近な場面を想定しているのでしょうか。小学校及び中学校の学習指導要領では、身近な暮らしに関わる場面として「家庭での生活・学校での学習や活動・地域の行事」（文部科学省、p.70/p.114）の3つが例として挙げられています。つまり、自分や家庭、友達や学校、地域などに関する話題が多く扱われることとなります。高校ではそれらに加えて、「地域での活動・職場での活動」（文部科学省、p.114）の場面が加わり、より広範囲でのコミュニケーションが含まれます。では、TOEFL Primary® / TOEFL Junior®の問題を例に、小学生・中学生・高校生の身近な場面でのコミュニケーションがどのように尋ねられているのかを見てみましょう。

小学校

まず、小学生が家庭で手伝いをする場面です。小学校の英語の教科書でも、家での手伝いの表現を学び、各児童がどのような手伝いをするのかを伝え合う活動があります。

TOEFL Primary®の Listening 問題（図1）では、手伝いをした子どもに対して、母親がどのようなアドバイスを与えています。

Mother: Yesterday, you washed your breakfast plate and put it away. But you forgot to dry it first. Always dry the dishes before you put them away.

Question: What did the mother tell her daughter to do?



A



B



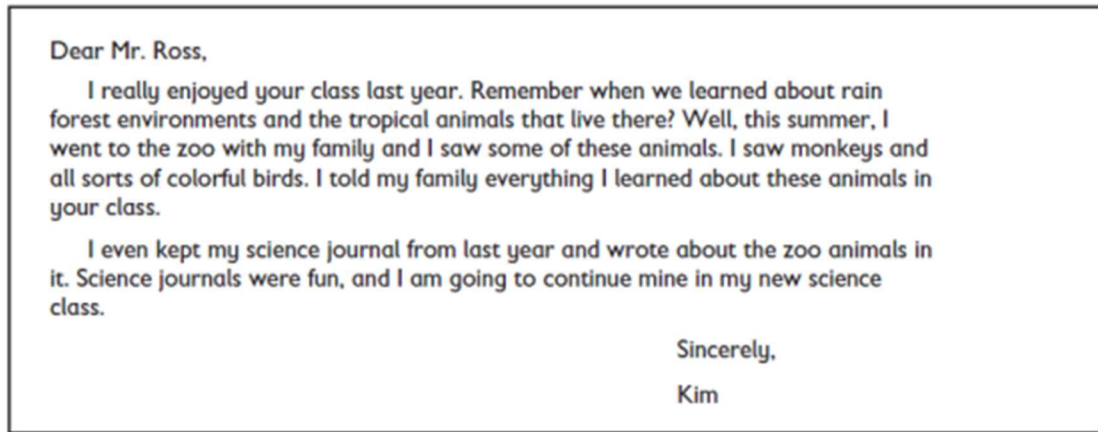
C

（図1. GC&T, 2022）

受験者は、母親のアドバイスを聞いた後で、質問に対して最も適切な絵を選択肢の中から選びます。ここでの正答は（C）です。母親の言った「お皿を洗ったら、拭くのを忘れないでね」というアドバイスを聞き取れるかが問われています。基本的な単語（“wash” “dry” “dishes” など）や文構造を理解すると共に、身近な場面によく使われるフレーズを知る必要があります。そのためにも、授業では手伝いなど児童が家庭内で日常行っていることを表現する活動を多く取り入れ、児童に場面を疑似体験させることが大切です。

中学校

中学生になると、手紙や E メールなど文字を介したコミュニケーションも多く行われます。親戚や先生、友達などへ E メールや手紙を書く場面は子ども達には珍しいことではありませんし、教科書の中にもそのような活動が含まれています。TOEFL Primary®の Reading 問題では、お世話になった先生への手紙が出題されています(図2)。



Why is Kim writing to her teacher?

- (A) To thank him for a fun class trip
- (B) To ask him about his new class
- (C) To tell him about her summer

(図2. ETS, 2022)

受験者は手紙を読み、手紙を書いた目的や内容の詳細に関する設問に答えます。ここでの問題の正答は(C)です。手紙の中では Kim が夏の思い出を述べています。“I’m going to tell you about ~”(~について述べます)などの表現は登場しませんが、文章全体から Kim が夏の思い出について、Mr. Ross に語っている(“To tell”)のだということを理解する必要があります。これは、「事実」と「意見」を区別するという Reading のとても重要なスキルです。

高等学校

高校生にも、身近な場面でのコミュニケーションの重要性は変わりません。TOEFL Junior®の Listening では、朝礼での校長先生の話聞き、その要旨を理解できるかを問う問題が出題されました(図3)。

Narrator: Listen to a high school Principal talking to the school students.

Principal: I have a very special announcement to make. This year, not just one but three of our students will be receiving National Awards for their academic achievements. Christ Conner, Mark Chang, and Cherie Patel have all been chosen for their hard work and consistently high marks. It is very unusual for one school to have so many students receive this award in a single year.

1. What is the subject of the announcement?

- A. The school will be adding new classes.
- B. Three new teachers will be working at the school.
- C. Some students have received an award.
- D. The school is getting its own newspaper.

(図3. ETS, 2022)

ここでは細かい内容を把握するというよりも、全体としてどのような話なのかを理解する力が求められています。ここでの正答は(C)です。話の主題が生徒なのか教師なのか、校長先生は何を伝えようとしているのかという概要を理解する力が求められます。高校生になると、母語である日本語では比較的容易に要旨の把握はできますが、それを英語でも行えるようになることが求められます。未習の語句も含まれるかもしれませんが、一言一句を逃さず聞き取るのではなく、何となくこんな話かなと概要を捉える力が必要です。知らない単語や表現があったら「もう分らない」と諦めてしまう聞き方ではなく、自身の経験や既習の知識を応用しながら何とか聞き取る戦略(方略)を身に付けることが不可欠です。今後の授業では、生徒がそのような戦略を伸ばせるような活動や指導を含めることが大切です。

ここまでTOEFL Primary® / TOEFL Junior®を例に見てきましたが、身近な場面でのコミュニケーションは、実は全国の公立高校の入試問題でも多く出題されるようになりました。学習指導要領で身近な場面でのコミュニケーションが重視されているため、いかに生徒が身近なコミュニケーションに慣れているのかが試されています。例えば、神奈川県公立高校の問題(令和4年度英語問題)では、図書委員のミホが留学生に図書館の使い方を説明しています(図4)。受験者は、説明を聞き、その内容をメモにまとめるという問題が出題されました。図書館の使い方のガイドは、中学生や高校生には身近な話題ですし、場面も想像しやすいと思います。

(ウ) 学校の図書館について、図書委員のミホが留学生のマイク (Mike) とジョー (Joe) に説明します。説明を聞いて、次のNo.1 とNo.2 の問いに答えなさい。

No.1 説明を聞いてマイクが作った次の<メモ>を完成させるとき、 ① ~ ③ の中に入れるものの組み合わせとして最も適するものを、あとの1~6の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

<メモ>

About Our Library

- We can use the library from 9:00 in the morning to 4:45 in the afternoon.
- We can use the library when the library teacher is there.
(On the first Wednesday of every month, she is ① .)
- The number of books we can usually borrow is ten ② , but we can borrow more books during vacations.
- We can't ③ dictionaries.

- | | | |
|-----------|-----------------|----------|
| 1. ① in | ② for two weeks | ③ find |
| 2. ① late | ② for one month | ③ borrow |
| 3. ① out | ② on weekends | ③ use |
| 4. ① in | ② for one month | ③ find |
| 5. ① out | ② for two weeks | ③ borrow |
| 6. ① late | ② on weekends | ③ use |

(図4. 神奈川県, 2022)

実際に流れたりスニング問題の SCRIPT を、以下に示します。テストでは、この図書館のガイダンスを2度聞いた上で解答します。

Hi, Mike. Hi, Joe. This is the library at our school. There are about 20,000 books. You can read and borrow books, and you can also study here. You can use the library from 9:00 in the morning to 4:45 in the afternoon from Monday to Friday. But, on the first Wednesday of every month, the library teacher is not here. If she isn't here, you can't use the library. Don't eat or drink in the library. You can study with your friends after school here, but, of course, you cannot speak with a big voice. You can usually borrow ten books for two weeks, but, during vacations, you can borrow more books if you want. The library has some dictionaries. You can use them only in the library. You can find the books you want by using the computer in the library. The books in the library will help you learn more about things you are interested in. For example, if you want to learn about Japan, you can find some books about Japanese art, festivals, or history here.

ここでの正答は(5)です。簡単なメモを取りながら、図書館の使い方を理解していきます。このように、身近な場面でのコミュニケーションは英語学習での基礎となるだけに、テストでも多く出題されるのだと思います。

3. 英語での学習に必要なコミュニケーション

身近なコミュニケーションと共に大切なのが、英語を用いて学ぶ力(ここでは、アカデミック英語力とします)です。これは、様々な分野の内容を英語で学習する際に必要な基礎的な英語の力です。例えば、図や表などの資料を参照しながら英語の説明を理解したり、英語での講義や説明を聞きながらノートを取ったりする力が挙げられます。その他にも、メモを見ながら相手にわかりやすく説明したり、資料やデータから分かったことを要約して書いたりする力も含まれると思います。アカデミック英語力は、今後、英語を用いて他教科や様々な分野を学ぶ際には、ますます求められるようになります。というのも、英語はグローバル化が進む21世紀の国際共通語だからです。つまり、多様な言語・文化背景を持つ人たちと協力して学び・働き・暮らす際に、英語でのコミュニケーションが必要となり、その準備をしておくことが欠かせないからです。そのため、単に挨拶や自己紹介ができればよいというだけでなく、クラスメートと一緒に資料を見ながら英語でやり取りし、意見を述べたり、必要な情報を得たり・伝えたりすることが求められます。これからは、小学校段階の授業から子どもたちの実態に即して、アカデミック英語力を伸ばす活動を多く取り入れてみて下さい。

アカデミック英語力を活用して解く問題は TOEFL®でも多く出題されており、TOEFL Junior®では、学校行事に関する英語の説明文を読んだ上で資料を読み取る問題が出題されました(図5)。

Student Volunteers Needed!

On Saturday, December 12th, from 10 A.M. until 4 P.M., Carverton Middle School will be holding a music festival in the school gymnasium. The special event will feature a variety of professional musicians and singers.

Task	Time	Date
Make posters	1 P.M.-4 P.M.	December 5th
Set up gym	11 A.M.-4 P.M.	December 11th
Help performers	9 A.M.-4 P.M.	December 12th
Welcome guests	10 A.M.-2 P.M.	December 12th
Clean up gym	4 P.M.-7 P.M.	December 12th

Interested students should speak with Ms. Braxton, the music teacher. Students who would like to help at the festival must have written permission from a parent or guardian.

3. What job will be done the day before the festival begins?

- A. Making posters
- B. Setting up the gym
- C. Cleaning up the gym
- D. Helping the performers

(図5. ETS, 2022)

この問題では、中学校の音楽祭でのボランティア募集に関する説明文と資料を読み、開始時間や内容に関する情報を整理できているかが問われています。ここでの正答は(B)です。このように英文と資料を行ったり来たりして内容を理解する活動は、実際に大学の授業や会社でのミーティングでは日常的に行われていますし、21世紀を生きる児童・生徒には、必要不可欠なアカデミック英語力といえます。

資料を読み取るアカデミック英語力は、TOEFL Primary® / TOEFL Junior®だけで試されるものではなく、多くの都道府県の公立高校の入試問題でも出題されています。

Riku: Tony, look! We can join some *online classes of the university.

Tony: Sounds interesting. I want to take one. I'm interested in City Planning.

Riku: Do you want to take a *Basic class or an *Advanced class?

Tony: I want to take a Basic class. But I talk with my family on the Internet every Thursday afternoon, so I can't take it on that day.

Riku: Really? But you can take it on (A), right?

Tony: Yes. I'll take it. Riku, which class are you interested in the most?

Riku: I'm interested in Making Parks in Towns the most. In the future, I want to make some parks in Tokyo.

Tony: Great! But, Riku, can you take that class? I think you are busy with the tennis club.

Riku: We practice every Monday, Wednesday, and Friday in the afternoon. So I can take a morning class.

Tony: OK. Do you want to take a Basic class or an Advanced class?

Riku: I want to take an Advanced class.

Tony: So you're going to take an online class on (B), right?

Riku: Yes!

Date	Day	Time	Class
August 2	Monday	10:00 - 12:00	How to *Design a City (☆)
		14:00 - 16:00	Making Parks in Towns (○)
August 3	Tuesday	10:00 - 12:00	Making Parks in Towns (○)
		14:00 - 16:00	City Planning (○)
August 4	Wednesday	10:00 - 12:00	Making Parks in Towns (☆)
		14:00 - 16:00	How to Design a City (○)
August 5	Thursday	10:00 - 12:00	How to Design a City (☆)
		14:00 - 16:00	City Planning (○)
August 6	Friday	10:00 - 12:00	Making Parks in Towns (○)
		14:00 - 16:00	City Planning (☆)

(☆)…Advanced class (○)…Basic class

[注] online オンラインの basic 基本的な advanced 発展的な design デザインする

- ア (A) Tuesday afternoon (B) Wednesday morning
- イ (A) Thursday afternoon (B) Wednesday morning
- ウ (A) Tuesday afternoon (B) Friday morning
- エ (A) Thursday afternoon (B) Friday morning

(図6. 東京都, 2022)

例えば、東京都の公立高校の問題（令和4年度英語問題）では、2人の生徒（Riku とTony）の会話を読みながら、夏休みに開講される海外の大学のオンライン講座の予定表を見て、2人の予定や興味に合った視聴コースを絞り込む問題が出題されました（図6）。受験者は単に英文を読むだけでなく、その内容を資料分析に応用して問題を解くことが求められます。ここでの正答は（ア）です。

このように、アカデミック英語力は高校入学段階でも求められている力です。さらに東京都では、令和5年度の公立高校入試からスピーキングテストも導入される予定です。そのため、より実践的な英語でのコミュニケーション能力が求められることとなります。小学校や中学校の英語の授業では、ますます「英語を学ぶ」だけでなく、英語を道具として使えるように「英語で学ぶ」活動も含めていくべきだと思います。

4. ノート・テイキング

アカデミック英語力として、ノートを取る技術（Note Taking）も欠かせません。特に、講義や説明を聞く際に要点をまとめてノートを取ることができると、理解が深まります。大学ではノートを取る技術が学修の成功にもつながります。そのため、中学生や高校生を対象とする TOEFL Junior[®]では、ノートを取る技術が試されています。次に示す例では、生物学の授業を受ける場面で、受験者は教師の説明（ハキリアリの特徴）を聞きながらノートを取ります。TOEFL Junior[®]では、試験の際にメモ用紙が渡されるので、それにノートを取りながら Listening 問題に臨みます（図7）。下の図は、私がハキリアリの説明を聞いて取ったノートの例です（図8）。そのノートを基に、独特な習性を持つアリに関する設問に答えていきます。

7. What is the main topic of the talk?

- A. A newly discovered type of ant
- B. A type of ant with unusual skills
- C. An increase in the population of one type of ant
- D. A type of ant that could be dangerous to humans

（図7. EST, 2022）

Biology Class: Ants

- How ants live and work together in a community
 - Grow foods (= Like farmers)
 - Grow Fungi (mushrooms) in their nests
- Leafcutter ants:
 - Use leaves to feed fungi
 - Cut leaves and carry leaves
 - Super ants: carry leaves of 100 times heavier than their body



（図8. 講義ノート）

このようなノートを取る技術は、特に、大学で授業を受ける際に重要です。そのため、大学入学共通テスト（令和4年度英語リスニング問題）でも、同様にノートやメモを取った上で解答する問題が出題されています（図9）。

状況

あなたは大学で、働き方についての講義を、ワークシートにメモを取りながら聞いています。

ワークシート

The Gig Work Model: A Work Model for the 21st Century

○What is "Gig Work"?

```
graph LR; B[Businesses] <--> DP[Digital Platforms]; DP <--> FW[Freelance Workers];
```

・ The Gig Work Model is characterized by (27)

○Benefits of Gig Work

For Companies	28	skilled workers
For Workers	choice of work	29

○Expansion of Gig Work

```
graph LR; L[local 30] >>> S[specialized 31];
```

(図9. 大学入試センター, 2022)

受験生は、ノートを取りながら働き方についての詳細な情報を聞き取ったり、講義全体の要旨について把握したりして解答していきます。このようにノート・テイキングの技術は、重要なアカデミック英語力の1つです。普段の授業の中でも説明を聞き、メモやノートを取る活動をぜひ取り入れてみて下さい。

5. まとめ

TOEFL Primary® / TOEFL Junior®を始めとして、高校や大学の入試問題も含めたテストは大きく変わってきています。どれも文法訳読を中心としたこれまでの授業の中では、出題されなかったような問題です。そのため、今後の授業では繰り返し英語を使う活動を行い、児童・生徒の実践的な英語力を伸ばすことが大切です。もちろん、私たち教師はテストのために授業をするわけではありません。しかし、テストが示すような方向性、つまり、身近な場面でのコミュニケーション能力や、アカデミック英語力が求められているのは事実です。それらを考慮すると、普段の授業でもより実践的に英語を使い、児童・生徒の英語でのコミュニケーション能力を高める取り組みがいつそう求められると思います。

教師を始め、児童・生徒が普段どれだけ授業の中で英語を使えているかが大切です。特に、中学校や高校では学習指導要領の中で「授業は英語で行うことを基本とする」と示されているように、教師と生徒の間では英語でのやり取りが基本になります。残念ながら、英語でほとんどの授業を進めている中学・高校の英語教員の割合は20%以下です(文部科学省、令和元年度「英語教育実施状況調査」)。英語教員が、ノンネイティブ・スピーカーとして英語を使用するモデルを

積極的に生徒に見せるとともに、英語によるインプットを生徒に多く与えるためにも、英語による指導は益々欠かせません。

その際に大切なのは、教師も児童・生徒も英語を楽しむことです。小学校段階では、ゲーム的な活動も多く、楽しいというイメージを持ちやすいと思いますが、たとえ高校生になっても英語学習は楽しんで行うべきだと思います。英語学習は修行ではありません。教室にいる誰もが、楽しみながら身近な場面での英語のコミュニケーションを行えるような授業運営をすることで、児童・生徒の英語力はさらに伸びていくと思います。

<プロフィール>

町田 智久

国際教養大学専門職大学院

グローバル・コミュニケーション実践研究科英語教育実践領域 英語教育実践領域 教授

東京都生まれ。信州大学教育学部卒業後、英語教師として東京都の公立中学校に12年間勤務。中学校に勤務しながら、東京学芸大学大学院にて修士号(教育学)を取得。東京都教育委員会教職員研修センターでの勤務を経たのち退職。米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校大学院へ留学し、修士号(英語教授法)および博士号(初等教育学)取得。帰国後、国際教養大学講師・助教(EAPプログラム)及び、国際教養大学専門職大学院准教授(英語教育実践領域)を経て、2021年4月より現職。専門は、小学校英語教育、外国語不安、教師教育。秋田県教育委員会をはじめ、県内外の自治体や企業と協働しながら各地で小学校～高校教員研修を実施。TOEFL Primary® / Junior®公式トレーナー。著書に文部科学省検定済小学校外国語教科書『Blue Sky elementary』(啓林館)、『児童英語教育の理論と実践』(翻訳・ナショナルジ・オグラフィック・ラーニング)、『The 6 Principles for Exemplary Teaching of English Learners: Young Learners in a Multilingual World』(TESOL Press)、『小学校英語の考え方』(大修館書店)など。

<参考文献>

神奈川県教育委員会. (2022). 令和4年度共通選抜学力検査問題. Retrieved from <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/nyusen/nyusen/gakuryokukensa/r4.html>

大学入試センター. (2022). 令和4年度大学入学共通テスト.

東京都教育委員会. (2022). 令和4年度都立高等学校入学者選抜学力検査問題及び正答表. Retrieved from https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/admission/high_school/ability_test/problem_and_answer/release20220221_05.html

文部科学省. (2018). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編. 開隆堂

文部科学省. (2018). 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編. 開隆堂

文部科学省. (2019). 高等学校学習指導要領(平成30年告示). 文部科学省

文部科学省. (2020). 令和元年度「英語教育実施状況調査」概要. Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20200715-mxt_kyoiku01-000008761_2.pdf

British Council. (2013). The English effect. Retrieved from <https://www.britishcouncil.org/sites/default/files/english-effect-report-v2.pdf>

Shin, J. K. (2021). Introduction: Teaching English as an additional language in the 21st century. In P. Vinogradova & J. K. Shin (Eds.), Contemporary foundations for teaching English as an additional language: Pedagogical approaches and classroom applications (pp. 3-12). Routledge.

ETS. (2022). TOEFL Primary sample questions. Retrieved from https://www.ets.org/toefl_primary/prepare/

ETS. (2022). TOEFL Junior sample questions. Retrieved from https://www.ets.org/toefl_junior/prepare/standard_sample_questions/

GC&T. (2022). TOEFL Primary サンプルテスト. Retrieved from https://gc-t.jp/about_test/primary_sample/

W3Techs. (2022). World wide web technology surveys. Retrieved from <http://w3techs.com>

TOEFL®, TOEFL ITP®, TOEFL iBT®, TOEFL Primary® and TOEFL Junior® are registered trademarks of ETS.

Danke Sehr